

## 経済建設常任委員 先進地研修報告

平成28年3月28日～29日  
委員5名、議長、課長2名

### 【かやぶきの里】

京都府南丹市美山町



かやぶきの里

国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている、かやぶきの里。京都と日本の海の中間に位置し、山あいの50戸の集落だが、そのうち住宅32棟と民俗資料館や店舗など6棟の、合計38棟がかやぶきの建築だった。最古の物は、寛政8（1796）年。江戸時代の物が18戸あるという。集落でのかやぶき数は、岐阜県の白川村、福島県下郷町に次ぐ全国第3位だそう。地区ではかやぶきの里保存会を組織し、公民館、農事組合、かやぶき屋根保存組合等と連携し、歴史的景観の保全と地区住民の生活の維持が両立されていた。

22年前指定され、年間の観光客の数は20～25万人。素朴さが売りの観光地だった。屋根の葺き替えは補助

を受け約20年に一度8000～1000万円かけて、計画的に行われているという。田んぼにはそばを植え、店舗のそば屋で出されて、地産地消も行われていた。景観や素朴さを売りにしていた点で非常に参考になった。

### 【日吉ダム】

京都府南丹市日吉町



日吉ダム上部にて

このダムは、京都市桂川の上流に位置し、洪水調節や、水道水、農業用水等の水枯れを防ぐ目的で建設されていた。高さ67・4m、堤頂長438m、堤体積67万m<sup>3</sup>、総貯水容量6600万m<sup>3</sup>の巨大なダムだった。目的の一つに、洪水の調節があり、災害を防ぐことがあった。平成25年9月の台風18号の時、桂川が氾濫しかけたが、このダムで流量の調節を行い、災害を軽減できたとの説明を受けた。本村でも立野ダムが建設されており、周辺整備の状況等も含め、非常に実のある研修地だった。

## 【京都北山杉の里総合センター】 京都市北区中川川登



北山杉を観察中

林業の振興を進める目的で視察した。北山杉は、室町時代ごろから作り始めたといわれ、皮をむき、砂で磨いて加工された丸太は、600年の歴史を刻んでいた。北山丸太ブランドで出荷される丸太は、1本10～50万円もするという。

密植したスギを7年目で枝打ち、上の方に少しだけ残された杉の葉は、阿蘇地域には見られない、奇妙な姿だった。しかし強度が強く、節がない、きれいで立派な丸太が出荷されていた。間伐するときは出荷につながり無駄がないようだ。また台杉といわれる白杉は、一度植えたら、小径木を何本も立て出荷し、また何本も幹を立て出荷するというサイクルができており、植え替える必要がない栽培法で興味深かった。このような栽培を研究することも必要ではないかと思った。

### 【マイファーム】

京都市下京区



マイファームで研修中

2日目は、マイファーム体験農園アグリイノベーション大学校、マイファーマー事業、流通イノベーション事業、レストラン事業を手掛けられ、新規就農者への教育、助言等を行う、株マイファームで研修した。中山間地などに力を入れられており、研修制度を利用した新規就農者の紹介等もされており、連携していけば、新たな展開も期待できるのではないかと感じた。

研修では、様々なことを学んできたが、京都の観光の様子も少しだけ見ることができた。1時間ほどの観光だったが、昔とは違う賑わいがあった。特に外国人は、アジア系ばかりでなく、欧米系の人も多かった。本村もこうなっていきたいものだと感じた。